

令和5年度学校運営連絡協議会実施報告

1 組織

(1) 組織の名称

「令和5年度 都立小石川中等教育学校 21開拓委員会」(全日制課程)

(2) 事務局の構成

事務局長(広報部主任)、事務局担当(広報部2名) 計3名

(3) 内部委員の構成

校長

副校長2名

経営企画室長

教務主任

生活指導主任

進路指導主任

国際部主任

SSH部主任 計9名

(4) 協議委員の構成(*評価委員を兼任)

東京国際大学教授 松本茂氏*

日本科学未来館 松岡均氏*

株式会社島津理化 梅田篤史氏*

文京区立駕籠町小学校長 矢部明美氏

文京区立昭和小学校長 松本竜太郎氏

巣鴨大鳥神社商店街会長 中村安次氏

小石川中等教育学校PTA会長 村上雅彦氏*

小石川中等教育学校PTA副会長 遠藤恵美氏 計8名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会(第1~3回)の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和5年6月16日(金) 協議委員7名、内部委員9名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出

学校経営計画、各分掌からの学校の現況報告

本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和5年10月20日(金) 協議委員5名、内部委員8名

令和5年度学校経営計画進捗状況中間報告(1学期分)

学校評価アンケートの趣旨説明、21開拓評価委員会の報告

協議:各分掌からの中間報告、本校の現状と課題について意見交換

第3回 令和6年2月16日(金) 協議委員6名、内部委員8名

学校教育診断アンケート集計結果報告及び学校経営に対する提言、

令和5年度学校経営計画進捗状況中間報告(2学期分)

協議:各分掌からの中間報告、評価結果についての協議及び学校経営に対する提言

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和5年6月16日(金) 評価委員3名、内部委員1名、事務局3名

学校運営連絡協議会設置要綱、令和4年度学校運営連絡協議会実施報告

今年度の学校評価の内容・項目の確認、協議会での提言について

第2回 令和5年10月20日(金) 評価委員3名、内部委員1名、事務局3名

学校評価アンケートの確認、本校と家庭・地域との連携への助言

第3回 令和6年2月16日(金) 評価委員3名、内部委員1名、事務局3名

学校教育診断アンケート集計結果の分析、学校経営に対する提言の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

ア 中等教育学校の完成年度である平成 23 年度から現在の形式で、生徒・保護者・教員及び地域を対象にアンケートを実施している。

イ 令和 5 年度は下記の項目を削除し、9 項目について現状（回答 1）以外に今後（回答 2）を追加した。

削除した項目：Q8 ICT の活用、Q10 ソーシャルスキル、Q16 学校からの情報提供

今後（回答 2）を追加した項目：Q1 小石川教養主義、Q2 理数教育、Q3 国際理解教育、

Q4 課題研究のスキル、Q5 行事を通じて主体性・協調性・創造性、

Q6 体罰・暴言の防止、Q7 いじめ防止、Q12 相談の機会

Q13 地域・社会への貢献

ウ 令和 5 年度の地域対象のアンケートは、地域の小学生を対象に行った理数系部活動体験、地域と連携した職場体験、東京寺子屋、巣鴨大鳥神社商店街の方を対象に実施した。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・回収率

ア 10 月～11 月 全校生徒 回収率 98.5%

イ 10 月～11 月 保護者全員 回収率 99.4%

ウ 11 月 教職員 回収率 100%

エ 6 月～11 月 地域 回収率 78.9%

(3) 主な評価項目

ア 保護者・教職員・生徒向け質問項目

[参考：生徒用]

Q1 本校は、小石川教養主義のもと、幅広くかつ深い内容を学べる学校であると思う。

Q2 本校は、理数教育に力を入れていると思う。

Q3 本校は、国際理解教育に力を入れていると思う。

Q4 本校では、小石川フィロソフィーの授業を通して課題研究のスキルが身につくと思う。

Q5 本校では、学校行事等を通じて私たちの主体性、協調性、創造性を伸ばすことができると思う。

Q6 本校は、体罰や暴言を防止するための取組が行われていると思う。

Q7 本校は、いじめを防止するための取組が行われていると思う。

Q8 私は、本校での教育を通じて他者を尊重する考え方を学んでいる。

Q9 私は、あいさつや時間を守ることなど、社会的なルールやマナーが身についていると思う。

Q10 私は、熱心に授業に取り組んでいる。

Q11 私は、本校での教育が将来の自分を実現するために役立っていると思う。

Q12 学校は、生徒の悩みの相談する場や悩みを相談する機会があると思う。

Q13 学校は、生徒がいろいろな機会を通じて積極的に地域や社会にかかわる機会を提供していると思う。

Q14 私は、充実した学校生活を送っている。

イ 教職員向け質問項目

Q あなたは、計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底することにより、ライフワークバランスの実現を図っていますか。

ウ 地域向け質問項目

Q1 回答者の年代 20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代以上

Q2 本校の教育活動に関わったことがありますか。

職場体験・東京寺子屋・地域の行事・地域のボランティア活動・理数系部活動体験に参加・その他
・関わっていない

Q3 本校の教員の対応はいかがでしたか。(5 択)

Q4 本校の生徒の対応はいかがでしたか。(5 択)

Q5 今後、小石川中等教育学校に積極的に地域と関わる行事や活動を行ってみたいと思いますか。(4 択)

Q6 本校について気が付いた点や良い点、今後交流できる活動がありましたらお書きください。

(4) 評価結果の概要

ア 保護者・教職員・生徒向けアンケート (回答1 [現状])

肯定的な意見の割合

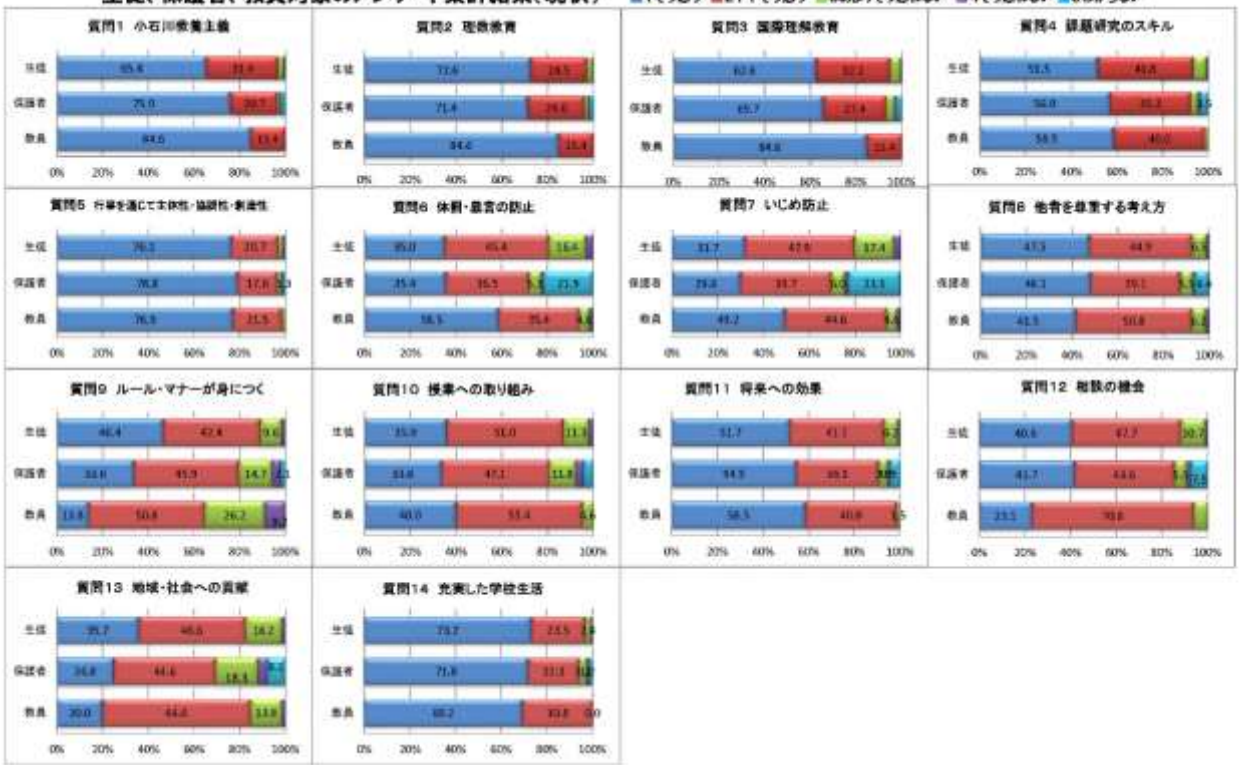
	生徒	1+2	保護者	1+2	教員	1+2
100%					小石川教養主義	100.0
					理数教育	100.0
					国際理解教育	100.0
	理数教育	97.1			充実した学校生活	100.0
	行事を通じて主体性・協働性・創造性	96.8	小石川教養主義	96.0	課題研究のスキル	98.5
			行事を通じて主体性・協働性・創造性	96.5	行事を通じて主体性・協働性・創造性	98.5
	充実した学校生活	95.7	理数教育	96.0	将来への効果	98.5
	小石川教養主義	95.7			授業への取り組み	95.4
	国際理解教育	94.0				
	課題研究のスキル	93.4	充実した学校生活	93.9	相談の機会	93.8
	将来への効果	92.0	国際理解教育	93.0	体罰・暴言の防止	93.8
	他者を尊重する考え方	92.4	課題研究のスキル	92.2	いじめ防止	93.8
					他者を尊重する考え方	92.3
			将来への効果	90.6		
90%						
	ルール・マナーが身につく	88.0				
	相談の機会	88.2	他者を尊重する考え方	87.2		
			相談の機会	85.3		
	授業への取り組み	86.0				
					地域・社会への貢献	84.6
	地域・社会への貢献	82.3				
80%						
	体罰・暴言の防止	80.4	授業への取り組み	80.6		
	いじめ防止	79.7				
			ルール・マナーが身につく	79.5		
70%						
			体罰・暴言の防止	71.0		
			いじめ防止	69.5		
60%					ルール・マナーが身につく	64.6
			地域・社会への貢献	69.4		

- 1 あてはまる
- 2 どちらかというにあてはまる
- 3 あまりあてはまらない
- 4 あてはまらない

【昨年度との比較】

・保護者・教員は全体的にアップした。
 ・教員のルール・マナーについては12%のダウンとなった。
 ・生徒は全体的には変わらなかった。
 ・昨年度までは授業・自宅学習の取組について聞いた項目について、今年度は授業の取組について聞いたところ、生徒は10%、保護者は5%、教員は8%アップした。

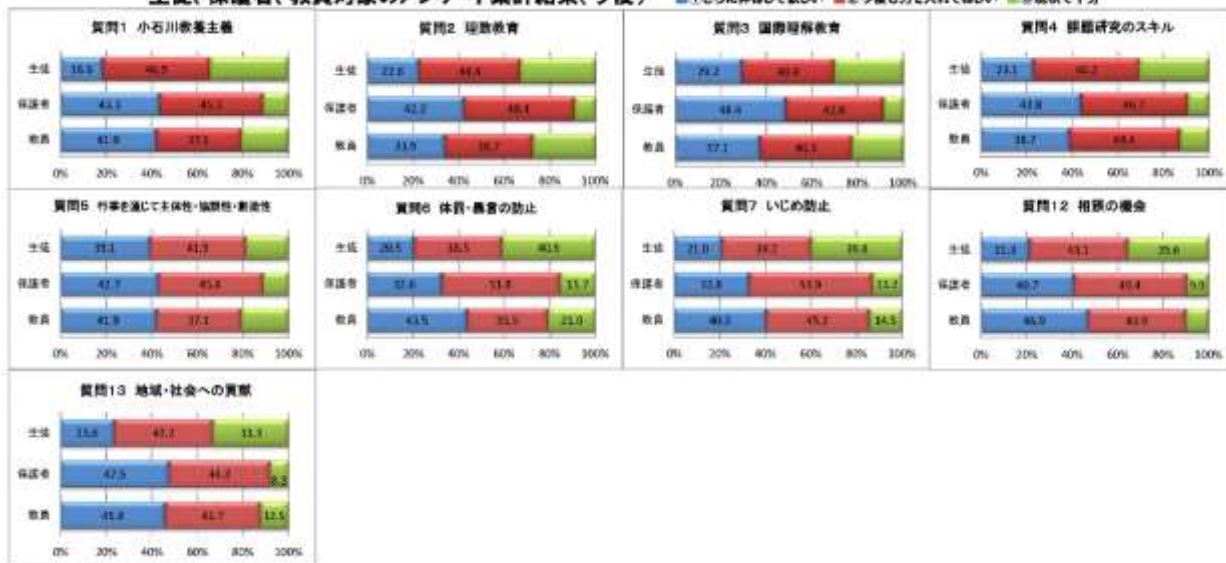
生徒、保護者、教員対象のアンケート集計結果(現状)



イ 保護者・教職員・生徒向けアンケート（回答2 [今後の展望]）

①：さらに伸ばして欲しい ②：今後も力を入れてほしい ③：現状で十分
 今年度は、回答2として今後の展望についても回答してもらった。

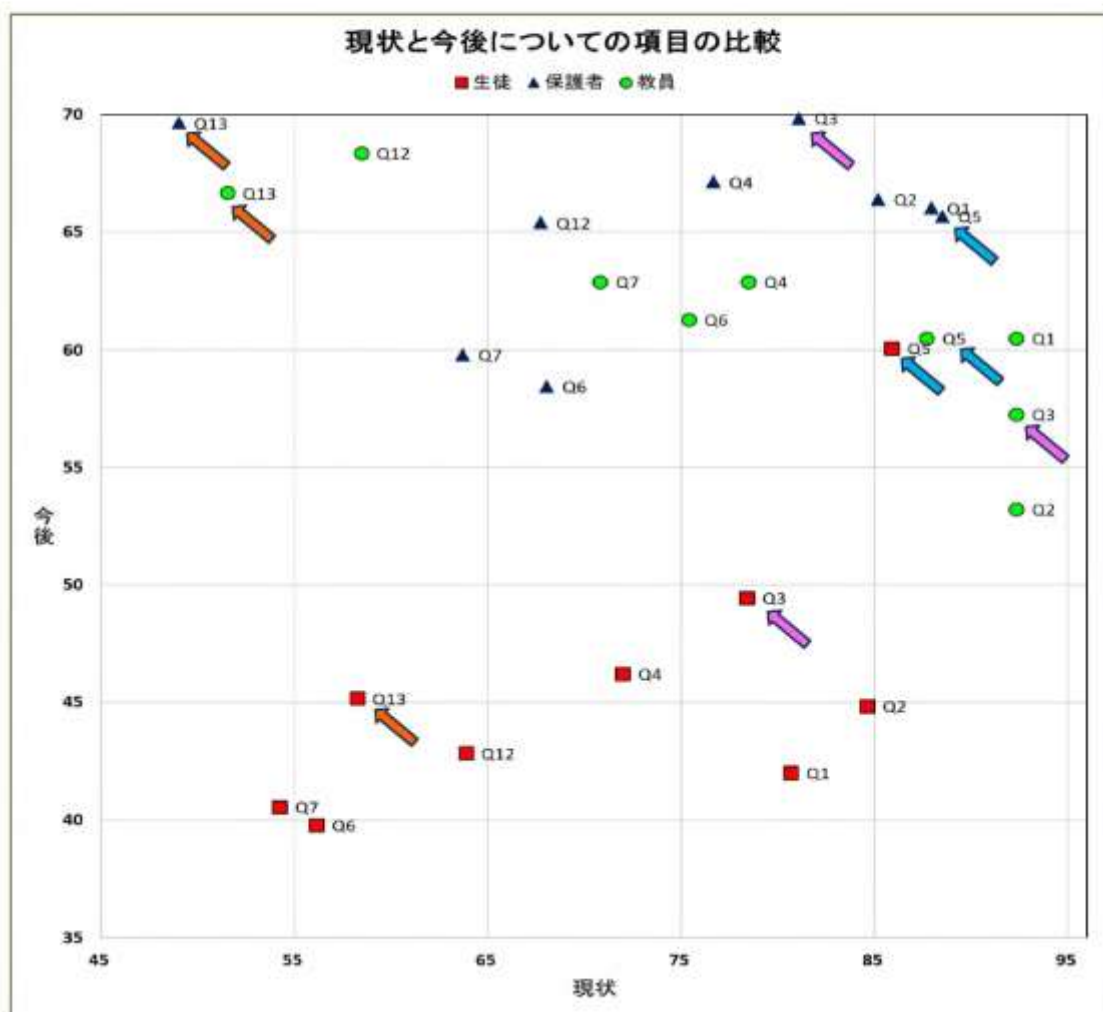
生徒、保護者、教員対象のアンケート集計結果(今後)



ウ 現状と今後についての項目の比較

回答1と回答2について、相関をまとめたのが以下の図である。(各項目の差がわかりやすくなるように重みづけをしている。)

現状と今後についての項目の比較										
現状	①: そう思う	②: ややそう思う	③: あまりそう思わない	④: そう思わない						
重み付け	100	50	0	-50						
今後	①: さらに伸ばして欲しい	②: 今後も力を入れてほしい	③: 現状で十分							
重み付け	100	50	0							
	平均値	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q12	Q13
		小石川教養主眼	福祉教育	国際理解教育	親類研究のスキル	行事を通じて	体育・器量の防止	いじめ防止	相談の機会	地域・社会への連携
生徒	現状	80.7	84.6	78.4	71.9	85.9	56.1	54.2	63.9	58.2
	今後	42.0	44.8	49.5	46.2	60.1	39.8	40.6	42.8	45.2
保護者	現状	87.9	85.2	81.1	76.7	88.5	68.1	63.7	67.7	49.0
	今後	66.0	66.4	69.8	67.1	65.7	58.4	59.8	65.4	69.8
教員	現状	92.3	92.3	92.3	78.5	87.7	75.4	70.8	58.5	51.5
	今後	60.5	53.2	57.3	62.9	60.5	61.3	62.9	68.4	66.7



横軸が力を入れていると評価できる項目（満足度）、縦軸が今後も力を入れてほしい項目（重要度）であるので、右上が、満足しているが今後も力を入れてほしい項目、左上は、満足度が低く今後力を入れてほしい項目となる。生徒はほとんどの項目について重要度がほぼ40～50であった。また、行事については満足しているが今後もっとやりたい項目であった。行事については保護者、教員ともに同様の傾向が見られた。保護者は全体的に今後も力を入れてほしい項目が60～70と高く、本校の教育への期待を感じられた。中でも特に国際理解教育と地域・社会への連携にいつそう力を入れてほしいという結果であった。教員においても、地域・社会への連携が他と比べると現状が十分とはいえず、今後力を入れた方がよいという結果であった。

エ 教員対象のみの質問項目に関するアンケート集計結果（経年変化）

「あなたは、計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底することにより、ライフワークバランスの実現を図っていますか。」という質問に対し、あまりそう思わないと回答した割合、令和4年度は32.3%だったが令和5年度は27.73%と減少した。教育活動におけるコロナの影響は減って元の教育活動にもどってきたのが影響していると思われる。

（参考）令和元年度の質問項目

「あなたは、ライフワークバランスの実現を図ろうとする意識を持っていますか。」



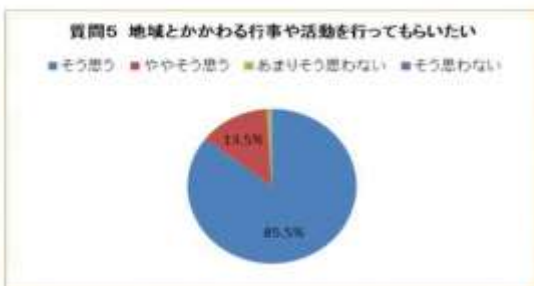
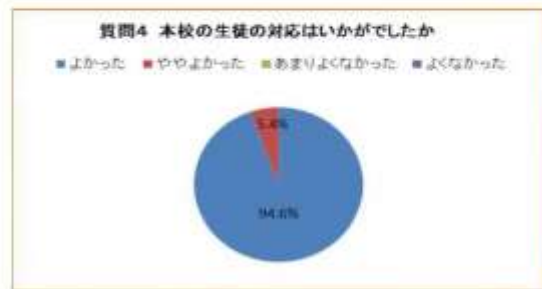
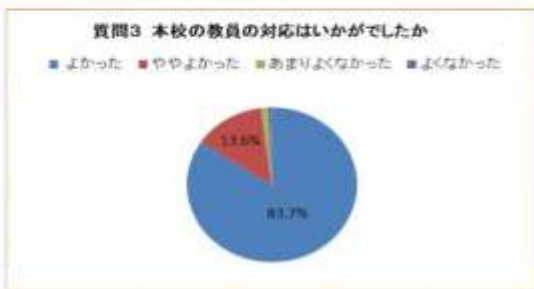
オ 地域向けアンケート結果

今年度は、地域の小学生を対象に行った理数系部活動体験に参加した生徒、保護者からのアンケートを加えた。本校の生徒の対応の良さが際立った結果となった。次回以降は、進路部と協力したアンケート様式を検討し、効率化を図っていきたい。

令和5年度 地域対象のアンケート回収数と集計結果

	地域
配布	265
回収	209
回収率	78.9%

対象	回収数
理数系部活動体験	123
職場体験	57
東京寺子屋	9
県橋大島神社商店街	20
合計	209



6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8名 (回答者7名)

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
5人	2人	0人	0人	0人	0人	0人